

「アス→ノウ」プロジェクトについて

令和 8 年 7 月

農林水産省

政策Open Lab「スポーツ×農業」プロジェクト

愛称：「アス→ノウ」プロジェクト

～あす明日アスリートに向かって農に取り組む選手たちを応援するプロジェクト～

1 農林水産省政策Open Lab「アス→ノウ」プロジェクトについて



- 農業界でのアスリートの活躍が農業界及びスポーツ界の課題の解決につながるのではないかと考え、2024年7月、農業界でのアスリートの活躍を後押しする施策の検討のため、「アス→ノウ」プロジェクトを始動。
- これまで、農業界で活躍するアスリートやチームの取組事例の調査等を実施（計 約65（2026年5月現在））。

取組の背景

- ・ 農業界では、農業者の減少、農村機能の低下、農業内外からの人材の呼び込み等に課題
- ・ 一方、スポーツ界では、アスリートのセカンドキャリア、アスリートやチームの収益等に課題

引退したアスリートやチームが農業界で活躍し、両界の課題解決に資する事例が散見
農業界とスポーツ界が連携することで、両界の課題を同時に解決できるのではないかと



新規政策の立案・実行を支援する制度「政策Open Lab」(※1)にて、
2024年7月、農林水産省の若手職員を中心(※2)に
「アス→ノウ」プロジェクトを立ち上げ
あす アスリート
～明日に向かって農に取り組む選手たちを応援するプロジェクト～

※1：農林水産省内の制度（部局横断的）
業務時間の1～2割を活動に充当可能
※2：2024年7月当初、入省1,2年目職員7名で
スタートし、2026年5月現在、計17名

取組の概要

アスリートの取組事例の 現状・課題・今後の展望等の調査

- ・ セカンドキャリアで農業を行うアスリート
- ・ 副業的に農業に取り組むチーム

スポーツ関係団体、農業関係団体、 自治体等の取組の調査

- ・ スポーツ界のキャリア支援等
- ・ 農業関係団体の農業参入支援等
- ・ 自治体のスポーツ振興、農業参入支援等

農業界でのアスリートの活躍における 効果・課題等の抽出

- ・ アスリートやチームの農業界への参入による効果
- ・ アスリートやチームの農業界への参入における障壁・課題

施策の検討

○ 2024年度に実施したアスリートやチームの農業の取組事例の調査等により、

・ 農業界でのアスリートの活躍には様々な効果があることが判明

(農業界)

- ・ アスリートが農業をすることで、農業に多くの人の関心と呼ぶことが可能
- ・ アスリートから食の大切さを発信することを通じ、食への興味・関心の向上
- ・ アスリートの関わりによる、地域のブランド力向上、交流人口の増加

(スポーツ界)

- ・ セカンドキャリアやアスリートの副業先の選択肢が広がる
- ・ 農業を媒介として、地域のファン・サポーターの確保等が可能となり、チームのブランド力の向上、収益力の強化につながる

・ 一方、農業に参入したアスリートやチームからは、様々な課題があるとの声

- ・ 農業の世界を知らないアスリートが大半

⇒アスリートに興味を持ってもらう、きっかけづくりが必要

- ・ 農業の政策や先行事例の情報を得にくい

⇒アスリートやチームに有益な情報が流れる仕組みが必要

- ・ 情報が一元的になっていない

⇒農業に取り組むアスリートやチーム等が互いに情報交換できる場が必要

これまでの調査結果を踏まえて得られた必要な方策（案）

- ・ スポーツ界、農業界、自治体等への営業活動（情報提供の促進・キャリア啓発）の実施
- ・ スポーツ界、農業界、産業界、自治体の関係者を会員としたコミュニティの創設



今後の「アス→ノウ」

- 2025年度、アスリートやチームの属性、参入の段階に応じたよりきめ細かな分析・課題の抽出を実施
- 2026年度、農業界でよりアスリートが活躍できる環境づくりに向け、施策の検討を深化、施策を実行

農業界から、農業界・スポーツ界の課題を解決／社会課題の解決（win-winの関係）

2 農業界とスポーツ界の課題を一挙に解決する「アス→ノウ」事例の整理

2-1 全国の「アス→ノウ」事例一覧

合計 **44** 事例

※令和8年7月23日時点

九州・沖縄 13件

- 福岡県 中原 大樹氏 (野球/きくらげ)
ゴールデンウルヴス福岡
(ハンドボール/野菜)
VC FUKUOKA
(サイクルロードレース/あずき)
- 佐賀県 佐賀アジアドリームズ (野球/米)
草場 悠輔氏 (競輪/キュウリ)
- 熊本県 水本 勝成氏 (サッカー/野菜)
- 大分県 松本 怜氏 (サッカー/サツマイモ)
- 宮崎県 ヴェロスクロノス都農
(サッカー/ブドウ、トマト等)
ヴィアマテラス宮崎
(サッカー/ブドウ等)
- 鹿児島県 平 秀斗氏 (サッカー/繁殖牛)
内菌 大貴氏 (サッカー/オクラ等)
鹿児島ユナイテッドFC
(サッカー/かんしょ)
- 沖縄県 沖縄SV (サッカー/コーヒー豆)

中国・四国 4件

- 広島県 岡崎 和也氏 (サッカー/葉物野菜)
戸田 隆矢氏 (野球/レモン)
- 徳島県 徳島インディゴソックス
(野球/アボカド、柿)
- 香川県 木村 和史氏 (陸上/野菜、シャインマスカット)

北海道 1件

- むかわ町 椿 文子氏
(スピードスケート/トマト、レタス)

北陸 4件

- 新潟県 FC越後妻有 (サッカー/米)
SANJO BEATERS.EXE
(3×3バスケットボール/米、サツマイモ)
- 石川県 PFUブルーキャッツ石川かほく
(バレーボール/米、柿、デラウウェア)
- 福井県 中垣内 祐一氏 (バレーボール/米)

東海 2件

- 三重県 江川 智晃氏 (野球/養豚)
NPO法人スポーツクラブどんぐり
(サッカー/野菜)

近畿 1件

- 兵庫県 稲垣 将幸 (クリス) 氏
(野球/野菜)

東北 4件

- 宮城県 石橋 良太氏 (野球/ネギ)
- 山形県 丹野 朝香氏 (ソフトボール/スイカ、野菜)
モンテディオ山形 (サッカー/米)
- 福島県 福島ユナイテッドFC (サッカー/果樹)

関東甲信・静岡 15件

- 茨城県 水戸ホーリーホック (サッカー/ニンニク等)
- 栃木県 渡邊 裕規氏 (バスケットボール/野菜)
栃木ゴールデンブレース (野球/野菜、米)
- 千葉県 esDGz OTAKI.EXE
(3×3バスケットボール/米、酒米)
佐藤 竜彦氏 (野球/サツマイモ、ニンジン)
- 神奈川県 三ツ間 卓也氏 (野球/イチゴ)
湘南ベルマーレフットサルクラブ
(フットサル/サトイモ)
ノジマステラ神奈川相模原
(サッカー/サツマイモ)
- 山梨県 工藤 公康氏 (野球/野菜等)
ヴァンフォーレ甲府 (サッカー/米)
- 長野県 石川 直宏氏 (サッカー/トウモロコシ)
高崎 寛之氏 (サッカー/白ひらたけ、長芋等)
古賀 穂氏 (バドミントン/米、リンゴ等)
- 静岡県 神取 忍氏 (プロレス/米)
遠藤 広太氏 (ラグビー/海老芋、トウモロコシ)

2 農業界とスポーツ界の課題を一挙に解決する「アス→ノウ」事例の整理

2-2 引退後、セカンドキャリアとして農業を始めた事例

工藤公康氏

経歴：元プロ野球監督（福岡ソフトバンクホークス）

栽培品目：野菜等（20a、山梨県北杜市）

取組の概要：

息子の就農を機に農業に関心を持つ。北杜市、水戸市、南阿蘇村で農業に取り組む。「生きる力を育む」をコンセプトに、子どもに農業体験×野球指導を提供。YouTubeでの発信も。



丹野朝香氏

経歴：元ソフトボール実業団選手（ペヤング）

栽培品目：すいか、野菜等（53a、山形県尾花沢市）

取組の概要：

地元でUターンし、選手時代の関係者の勧めから就農。野菜は選手時代のつながりを生かして、インターネットで直接販売。



三ツ間卓也氏

経歴：元プロ野球選手（中日ドラゴンズ）

栽培品目：いちご（90a、神奈川県横浜市）

取組の概要：

コロナ禍で家庭菜園を趣味に。2021年の引退後、自治体の研修を受け、観光農園を開園。現役時代のファンを生かす戦略で販路を拡大。



江川智晃氏

経歴：元プロ野球選手（福岡ソフトバンクホークス）

栽培品目：養豚（加工販売業）（三重県四日市市）

取組の概要：

母が営んでいた養豚場を元に、精肉加工業、飲食店経営と事業展開。元所属球団のスタジアムグルメとして販売も。



岡崎和也氏

経歴：元プロサッカー選手（ファジアーノ岡山）

栽培品目：葉物野菜等（93a、広島県広島市）

取組の概要：

祖父母が兼業農家であり、引退後、自治体の研修を受け、就農。始めやすい葉物からはじめ、ミニトマトにも挑戦。JA全青協理事を務める。



高崎寛之氏

経歴：元プロサッカー選手（松本山雅FC）

栽培品目：白ひらたけ、長芋等（4.2ha、長野県松本市）

取組の概要：

元白ひらたけ生産者のサポーターと出会い、事業継承する形で就農。就農から3年目で半独立、法人化。社会人チームの選手雇用も。



○ 農業界への効果・メリット

- 魅力発信：アスリートの知名度・発信力を活かし、農業や食の魅力を発信でき、**農業が身近な存在**になる。
- 食育活動：食育に関心の強いアスリートが多く、**スポーツやアスリートを起点に農業や食と接点を持てる**ようになる。

○ スポーツ界への効果・メリット

- ロールモデル：就農が魅力ある**セカンドキャリアの選択肢**の一つになる。

2 農業界とスポーツ界の課題を一挙に解決する「アス→ノウ」事例の整理

2-3 チームで営農する事例

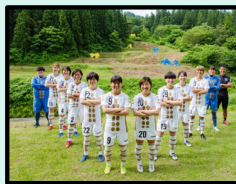
FC越後妻有

女子サッカー実業団チーム(新潟県十日町市)

栽培品目：米

取組の概要：

選手が棚田の担い手として移住、就農。周囲の農家から農地を預かり営農。棚田バンクや「棚田の新米おとどけし隊」といった活動により付加価値を高め、「大地の米」として販売。



ゴールデンウルヴス福岡

プロハンドボールチーム(リーグH)(福岡県福岡市・糸島市)

栽培品目：野菜等

取組の概要：

日中は農業に従事し、夜にハンドボールの練習を行う二刀流。選手の安定収入確保とデュアルキャリアの構築を目指す。都市近郊型農業で地域社会にも貢献。



水戸ホーリーホック

プロサッカーチーム(J1)(茨城県水戸市)

栽培品目：ニンニク等

取組の概要：

コロナ禍でスポーツの収益が減る中、新たな収入源として農事業「GRASS ROOTS FARM」を立ち上げ、クラブ、サポーター、住民が協力して営農。



esDGz OTAKI.EXE

プロバスケットボールチーム(3×3)(千葉県大多喜町)

栽培品目：米等

取組の概要：

プロスポーツ選手のデュアルキャリア開拓と町の活性化をテーマとしてチーム創設。選手7人のうち3人が農業に従事。中山間地域における担い手不足に貢献。



ノジマステラ神奈川相模原

プロサッカーチーム(WEリーグ)(神奈川県相模原市他)

栽培品目：サツマイモ

取組の概要：

耕作放棄地を活用し甘藷栽培を行う「かわしまやきいもストア」との協同プロジェクト。練習場内にある使用されていなかったトレーニング場を農場として整備し、活用。



佐賀アジアドリームズ

プロ野球チーム(九州アジアリーグ)(佐賀県武雄市・嬉野市)

栽培品目：米、野菜

取組の概要：

球団として農業プロジェクトを始動し、耕作放棄地を再生するため、選手・スタッフが地元農家と協力し、畑の開墾から野菜栽培、米の田植え・収穫までを実施。



○農業界への効果・メリット

- ・耕作放棄地・担い手不足解消：地域の農業、農地の担い手になり得る。また、引退後の就農への足掛かりになる。
- ・高付加価値化：選手が農業に携わることで、付加価値やストーリーをつけて販売することができる。

○スポーツ界への効果・メリット

- ・地域振興、地域貢献：地域住民とのつながりをもつことができ、交流人口の増加が見込める。
- ・キャリアの選択肢拡大：選手時代に農業に関わることで、デュアルキャリアの実現や、セカンドキャリアとして農業を選択しやすくなる。

2 農業界とスポーツ界の課題を一挙に解決する「アス→ノウ」事例の整理

2-4 チームに所属するアスリートが農業に協力・従事する事例

徳島インディゴソックス

プロ野球チーム(四国アイランドリーグplus)(徳島県)

栽培品目：アボカド、柿等

取組の概要：

選手が野球と両立しながら、仕事に従事しており、一部選手が地元の農業法人で農業に従事。体力のある選手が、重労働に従事でき、地元農家の力になっている。



福島ユナイテッドFC

プロサッカーチーム(J3)(福島県)

栽培品目：りんご、もも等 6 品目

取組の概要：

選手が年 4 ～ 5 回、地元農家の農作物の栽培に携わり、農作物をECサイトやスタジアムで販売。東日本大震災の風評被害を払拭し、福島を盛り上げることがきっかけ。



ヴェロスクロノス都農

サッカーチーム(九州サッカーリーグ)(宮崎県都農町)

栽培品目：ぶどう、トマト、茶等

取組の概要：

選手の大半が地域おこし協力隊として活動しており、農作業の手伝いも行っている。農家さんと選手の接点が生まれ、試合観戦にもつながっている。



SANJO BEATERS.EXE

プロバスケットボールチーム(3×3)(新潟県三条市)

栽培品目：米、さつまいも、芝生

取組の概要：

選手が地域おこし協力隊の一員となり、半農半バスケットに取り組む。地元の棚田を守るべくコメ作り等に励み、バスケットのホームゲーム開催時には地元の方が応援に来られるなどして、地域を盛り上げている。



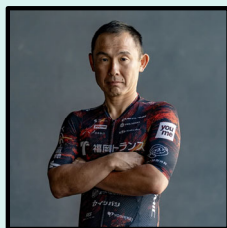
VC FUKUOKA (向川選手)

サイクルロードレースチーム(福岡県)

栽培品目：あずき

取組の概要：

過去の農業経験から、スポンサーである福岡トランスの耕作放棄地解消と障害者雇用を掛け合わせた農業の指導者として雇用。仕事前後2時間の練習が確保できることがメリット。



ジェイリースFC (松本怜選手)

サッカーチーム(来季よりJFL)(大分県)

栽培品目：さつまいも

取組の概要：

午前中は練習、午後からは大分トリニータCROの肩書で農作業。大分トリニータの地域貢献活動の一環として、サツマイモやカボスを栽培し、試合会場などで加工したタルトなどを販売している。



○農業界への効果・メリット

- ・担い手：地域の農業労働力になる。
- ・発信力：チームのファンを中心に、地域の農業についてPRできる。

○スポーツ界への効果・メリット

- ・収益力強化：選手の収入やチームの収益の一つになる。
- ・地域貢献：チームと地域・地域住民の結びつきが強くなる。

2 農業界とスポーツ界の課題を一挙に解決する「アス→ノウ」事例の整理

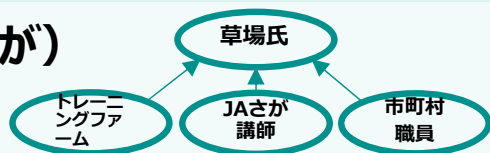
2-5 自治体・企業等が「アス→ノウ」事例に関わる事例

草場悠輔氏（嬉野市・JAさが）

経歴：元競輪選手

取組の概要：

ケガで引退後、JAさがのトレーニングファームのハウス団地を活用して就農。JAさがのキュウリ生産部会講師に弟子入りし、生産技術や農業経営を学ぶ。市町村職員からの協力もあり、補助金等の情報を収集し、活用。



茨城県つくば市×ルートインBCリーグ(スポーツリーグ)

取組の概要：

つくば市の地域農業の課題とルートインBCリーグの課題をマッチングし、解決に向けた方法を検討中。

つくば市の課題

- ・担い手不足や高齢化
- ・遊休地の増加

BCリーグの課題

- ・オフシーズンの収入確保
- ・社会との接点が持たにくい

マッチング方法と効果

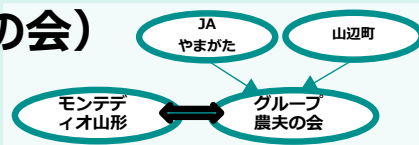
- ・農業と触れ合う体験の場の構築
- ・オフシーズンに農作業に従事

モンテディオ山形（グループ農夫の会）

サッカーチーム(J2)(山形県山辺町)

取組の概要：

棚田の再興に取組むボランティア団体「グループ農夫の会」とともに、15年以上にわたり山辺町・大蔵の棚田再生活動に取り組む。選手やサポーターが田植え・収穫した米は「モンテ棚田米」としてスタジアムで販売。



(株)ドリームキャリア富山

取組の概要：

富山県内の企業やスポーツ協会と連携し、アスリートの企業就職に特化した支援や就業マッチングイベントなどを実施。今後は農業法人やJAなどの農業関係の企業の呼び込みも検討。



高原直泰氏（ネスレ・琉球大）

経歴：元サッカー選手

（元日本代表/現沖縄SV選手兼監督）

取組の概要：

クラブチーム沖縄SVの収益を得るためにも、2023年に現役を引退する前から沖縄SVアグリを設立。ネスレが行うコーヒー農家支援プログラムの一環として、琉球大学の協力も得つつ、沖縄でのコーヒー栽培に取り組む。



熊本県芦北町×(株)Oriai×(株)共立ソリューションズ

取組の概要：

(株)Oriaiは芦北町と連携して農業インターンシップを実施し、地域の人手不足解消に貢献。(株)共立ソリューションズは芦北町、農業科のある芦北高校と協定を結び、持続可能な農業モデルの共創を目指す。今後は、3者で協力しスポーツと地域の連携方法を検討。



○農業界への効果・メリット

- ・担い手：より多くの担い手の確保等が可能に。

○スポーツ界への効果・メリット

- ・キャリアの拡大：アスリート自身のキャリアを考慮した活動が展開可能。就農時において、多くの人の協力を呼ぶことができる。

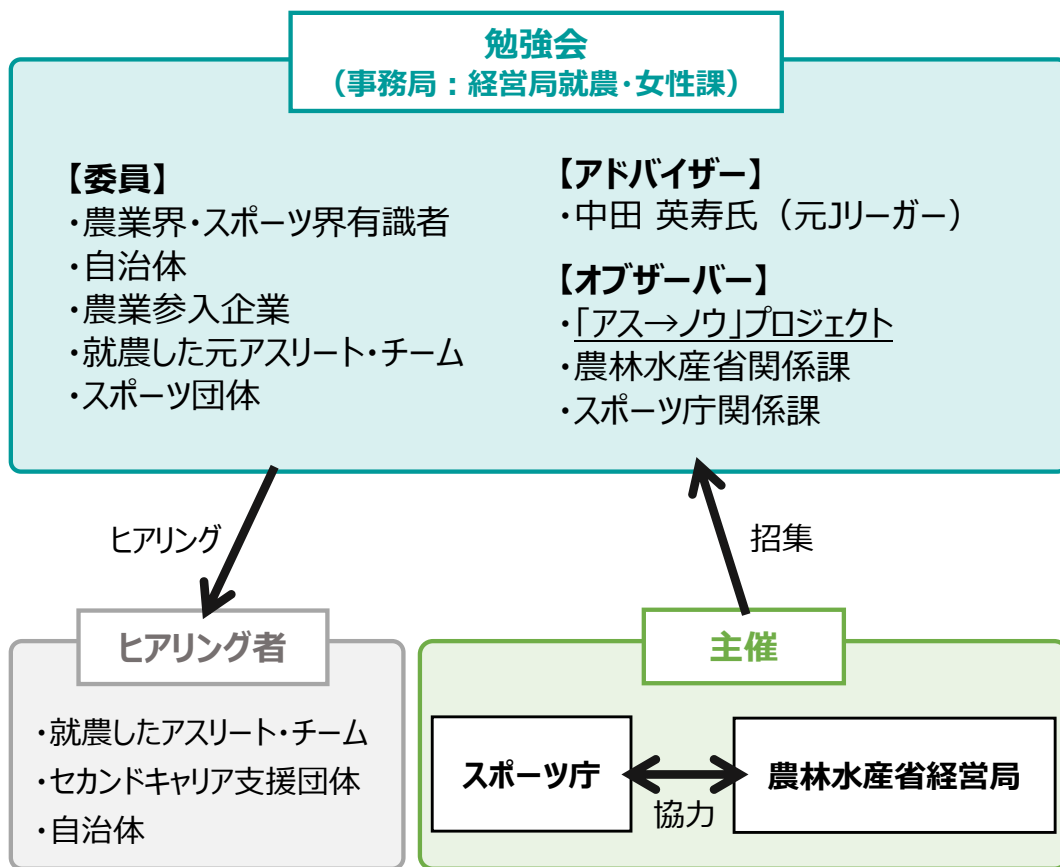
○自治体・企業等への効果・メリット

- ・目的の達成：各々の目的を実現するための、人材の確保や機会の創出につながる。

3 農業界とスポーツ界との連携に関する勉強会

- 我が国の農業者が減少する中で、農業が成長産業として持続的に発展し、食料の安定供給を担っていくためには、**様々な分野から農業人材の呼び込みと定着を推進することが必要。**
- スポーツ界から農業に参入するアスリートも現れてきており、**農業に対して、セカンドキャリア、プロチームの経営基盤の強化といった期待**が寄せられているが、農業の知識・人脈がないアスリート等には就農へのハードルが高く、アスリートのセカンドキャリア等として農業が意識されることが少ないのが実態。
- これらを踏まえ、農林水産省経営局にて、**農業界とスポーツ界がより連携を深め、Win-Winの関係となるような方策を検討するため、農業界とスポーツ界との連携に関する勉強会**を設置。

勉強会の構成



各回の議事内容

- ◆第1回（令和7年8月1日開催）
 - ・小泉元農林水産大臣からの御挨拶
 - ・農林水産省、「アス→ノウ」プロジェクト、スポーツ庁から、それぞれの取組を説明
 - ・委員等による意見交換
- ◆第2回（令和7年9月1日開催）
 - ・農林水産省による農業界の現状と課題、現行の施策を紹介
 - ・農業にも従事するスポーツチームや、地域で「農業×スポーツ」に取り組む自治体へのヒアリング
 - ・委員等による意見交換
- ◆第3回（令和7年11月25日開催）
 - ・後継者不足等の農業界の課題に立ち向かうスポーツチームや、福島の魅力発信のために地元農業に関わるスポーツチームにヒアリング
 - ・現役引退後、新規就農された元アスリートにヒアリング
 - ・アスリートのキャリア支援に携わる委員からの御説明
 - ・委員等による意見交換
- ◆第4回以降（日時未定）



4 効果的と考えられる対応策の検討

4-1 各界の関係者が相互連携するためのプラットフォームの創設

○ヒアリングや勉強会で判明した、就農・参入フローの各段階における代表的な課題及び考えられる対応策

就農・参入のフロー	ヒアリングや勉強会で判明した課題	考えられる対応策（案）
農業について知る ↓ 具体的に就農するための情報を得る ↓ 実際に就農する ↓ 農業経営をする 経営発展を目指す	・現役中に他業種について情報を得る機会が少ない ・農業経営に関する本質的な情報（収益見込み、リスク等）にアクセスできないためビジョンが見えず、就農のハードルが高い ・近い境遇同士で情報交換できる場がない ・就農・農業参入段階において、支援制度に関する情報を得る機会が必要 ・就農・参入時は農業技術のノウハウがないため、技術・情報面でサポートする体制が必要 ・経営が黒字化しない	・チームや現役中のアスリートに対する、農業参入事例の紹介や農業体験の提供 ・就農相談会の開催 ・農業経営・収支モデル等の情報の提供 ・就農したアスリート同士や、就農前のアスリートと就農したアスリートが交流できる場の提供 ・チームやアスリートに対する、制度等の情報を提供する既存施策への誘導 ・農業参入を踏まえたスポンサーの紹介 ・加工品の製造・販売や、ファン・地元民を巻き込んだ農作業イベントの実施、マルシェの開催といった、付加価値のある農業経営の展開を支援

上記の対応策等を実行するため、

スポーツ界、農業界をはじめ、様々な関係者を会員としたプラットフォームを創設

4 効果的と考えられる対応策の検討

4-2 プラットフォームで発揮する機能

- スポーツ界と連携するメリットを集中的に発揮するため、アスリートに向けた機能に特化すると同時に、就農全般の課題については、既存施策との効果的な連携を行い、解決を目指す。
- プラットフォームでは、大きく「アスリートに農業を知ってもらう」、「アスリートの就農ハードルを下げる」、「経営発展のサポート」、「農業外への情報発信」の4つの側面からアプローチを実施。

<農業を知ってもらう>

- 事例の提供
- (出張型) 就農相談会の開催
- 体験機会の提供



<期待される効果>
・セカンドキャリアの選択肢として農業が入るようになる

<就農ハードルを下げる>

- 農家団体とアスリート団体をマッチング
- 収支モデル紹介
- マッチング
(元アスリート同士)



<期待される効果>
・農業に参入したアスリートの増加

<経営発展のサポート>

- マルシェの開催
- 参入者同士で交流する場の提供
- スポンサーを紹介



<期待される効果>
・農業に参入するアスリートの経営の安定

<情報発信>

- ファン・地域住民に対する農業体験機会の提供
- マルシェ開催



<期待される効果>
・世間からの認知度向上
・関係人口の増加

【既存施策との連携】

○就農支援の情報提供



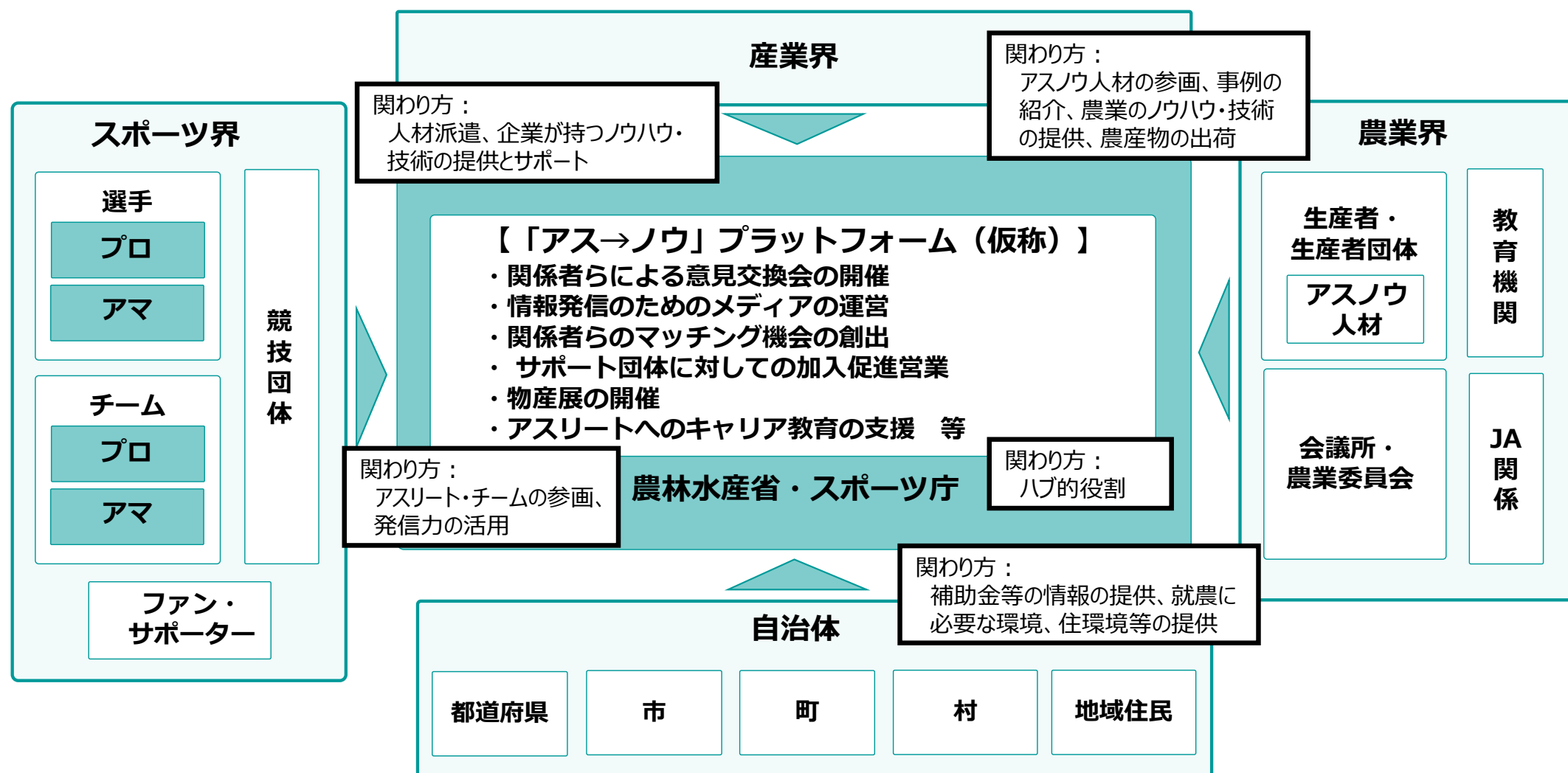
新規就農一般への支援は既に存在することから、それら既存施策との効果的な連携を目指す

（農業をはじめ.jp、農水省HP、新・農業人ガイドブック等）

4 効果的と考えられる対応策の検討

4-3 プラットフォームのイメージ（令和8年度～）

- アスリートやチーム及び競技団体、スポーツ庁や地方自治体等と連携し、
スポーツ界、農業界、産業界の各界の関係者が情報交換・発信等を行うことが出来るプラットフォームを創設する。



4 効果的と考えられる対応策の検討

4-4 プラットフォームの創設に向けての対応

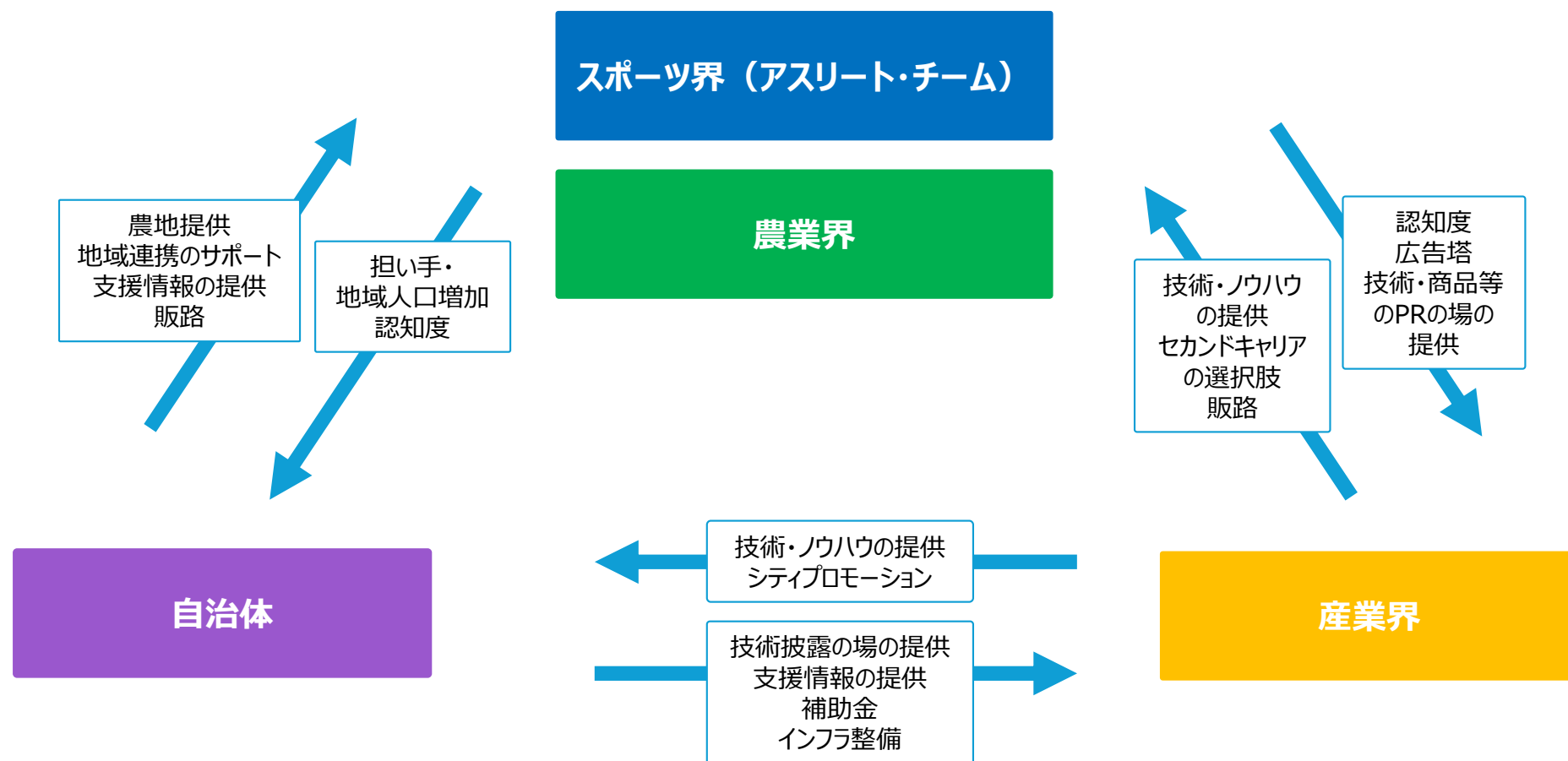
○農業界とスポーツ界の連携には、企業や自治体など**各界のサポートが必要**。

サポート団体を各業界から掘り起こし、会員としてプラットフォームへの参画を促す体制を構築することが重要。

○サポート団体の掘り起こし及びプラットフォーム参画には、

①**農業界とスポーツ界の連携の周知**②**プラットフォーム参画へのメリットの訴求**が必要不可欠。

スポーツ界・農業界、産業界、自治体がプラットフォーム内で担う役割



サポート団体に訴求可能なプラットフォーム参画におけるメリット 営業先として想定するサポート団体

スポーツ界（アスリート・チーム）

メリット

- ・セカンドキャリアの選択肢の拡大
- ・農業経営や販売戦略の多様化
- ・円滑な地域連携
- ・新規サポーターや関係人口の増加

営業先

- ・プロスポーツ組織（NPB、Jリーグなど）
- ・就農している元アスリートやスポーツチーム

産業界

メリット

- ・国との協力関係の構築（消費者からの信頼性の向上）
- ・日本の食料生産に貢献する団体としてイメージアップへの期待
- ・アスリートやチームの認知度を活用
- ・CSR（社会貢献）活動の強化

営業先

- ・自社の持つノウハウや技術を提供できる企業など

自治体

メリット

- ・耕作放棄地の解消
- ・次世代の担い手や労働力の確保
- ・スポーツツーリズムによる経済やプラットフォームの活性化
- ・新たな知見による「ブランド化」とイノベーション

営業先

- ・「農」で生きていきたいアスリートを全力で応援する街

農業界

メリット

- ・耕作放棄地や担い手不足の解消
- ・多様な団体との連携による発信力・影響力の効果
- ・農業に目が向いていない、関心のない層へのアプローチ

営業先

- ・スポーツ界からの農業参入に好意的な団体
- ・農業教育機関

プラットフォームの活性化・拡大・価値向上に向けて、様々な団体に積極的に営業していく

5 農業界とスポーツ界の連携に係る理解醸成について

- 農業界でのアスリートやスポーツチームの活躍を実現するには、**スポーツ界や農業界に加え、自治体、他産業界、消費者といった多様かつ多数のステークホルダーによる連携が必要。**
- 一方で、アスリートやスポーツチームによる就農事例は、**社会的認知が十分とは言えず、その現状やニーズ、取組の意義についても広く理解されていないのが実態。**
- これらを踏まえ、「アス→ノウ」事例及び「アス→ノウ」の取組の発信力を強化することで、「アス→ノウ」事例に対する認知度と理解度を高め、より多くの**スポーツ界からの農業参入者と多様な業界からの協力者**を獲得する。

現状

農業×スポーツの事例が世間に十分に知られていない

課題

農業×スポーツの事例の発信力を強化させ、認知度と理解度を高める

現在行っている対応策

- 農林水産省メディアツールの活用
 - ・HPへ「アス→ノウ」関連情報を掲載
 - ・BUZZMAFFとコラボし、アスリート及びスポーツチームによる就農事例と「アス→ノウ」の取組を発信
- 農林水産省の既存制度との連携
 - ・「ディスカバー農村漁村の宝」にて「アス→ノウ」事例が選定
- SNS運用
 - ・Instagramを開設し、「アス→ノウ」の活動内容を報告
- チラシの作成
 - ・イベントに合わせてチラシを作成・配布し、「アス→ノウ」の取組について紹介



今後講じるべき対応策

- 農林水産省ツールのさらなる活用
 - ・Webマガジン「aff」への記事の掲載
 - ・「消費者の部屋」、「こども霞ヶ関デー」への参加
- 農林水産省における新規制度の開設
 - ・「アス→ノウ」事例に焦点を当てた表彰式の開催
- 企業との連携
 - ・「アス→ノウ」事例のドキュメンタリー映像やCMの制作・放映
- SNS発信のさらなる強化
 - ・Instagramにおける「アス→ノウ」事例の紹介
- イベント等の開催
 - ・「アス→ノウ」事例による物産展を開催



より多くの
スポーツ界からの
農業参入者
多様な業界からの
協力者を獲得

農業界でのアスリートの活躍を後押し

〈具体策〉

- ① スポーツ界、農業界、自治体等への農業界とスポーツ界の連携に関する**営業・啓発活動**
- ② 農業界とスポーツ界との連携に関する**社会的認知度拡大・理解醸成**
- ③ スポーツ界、農業界・産業界・自治体の関係者が情報発信・交換できる**プラットフォームの創設**
プラットフォームの運用による、**各関係者の取組促進**
- ④ 関係者が協力してアスリートの農業界での活躍に向けて取り組む**モデルの拡大・支援**



農業界から、農業界・スポーツ界の課題解決・価値最大化（Win-Winの関係）

- **スポーツ界**

セカンドキャリア問題の解決、地域密着度向上、収益力の強化 等

- **農業界**

アスリートが知名度等を活かし、農業の魅力度向上、就農人口増加、地域活性化 等



農業界・スポーツ界がともに持続的に発展（相乗効果）